2015年（平成27年）1月1日（木）

住民漠たる不安

住宅街の障害者ホーム建設

わかりあえたら

不寛容時代に 1

集会所の掛け時計がむなしく時を刻んでいた。2014年3月30日、川崎市北部の住宅街に移転を計画する精神障害者のグループホームと、約20人の地区住民の話し合いは平行線のまま、3時間がたとうとしていた。

「原発も安全と言われながら事故が起きた。精神障害者は本当に安全なのか」「社会的地位の高い住民が多い地域に来ないで」

激しく畳みかける住民の言葉に、ホームの青野真美子所長(55)の顔はこわ張った。

同じ町内の老朽化した一軒家から1キロ離れた新築アパートへ移る予定で、工事は終わりかけていた。だが、話し合いからまもなく、さらに大きなショックが待っていた。工事業者から連絡を受け、駆けつけた青野さんの目に飛び込んだのは、10本近いのぼりと横断幕だった。「精神障害者 大量入居 絶対反対」。夕闇の中、赤い文字が揺らめいていた。

◇

炎を拡大させたのは近くに住む女性医師だ。経営する医院のブログに書き込んだ。「精神障害者にも幸せに暮らしてほしいが、まともに働いて税金を納めている人の生活を阻害してはいけない」。医院の受付に反対の署名用紙を置いた。共感は近隣住民から地区内の子供を持つ親へ広がり、署名は1カ月で1000人を超えた。

ホームの職員は動揺した。「入居者を傷つけるだけかもしれない」。撤退を促す意見も出た。

青野さんは、入居者たちに反対運動が起きていることを打ち明けた。

「そういうのあると思ったんだ……」。刺し子が得意な90代の女性がうつむいた。

女性は家庭内のストレスから心を病み、10年前に精神科病院に入院した。2年半の入院後、家族と離れホームで暮らすことを決めた。小さな一軒家での共同生活。誰かが熱を出せばみんなでおかゆを作った。やっとたどり着いた穏やかな暮らし。同じ仲間とのきれいな新居での生活も楽しみにしていた。

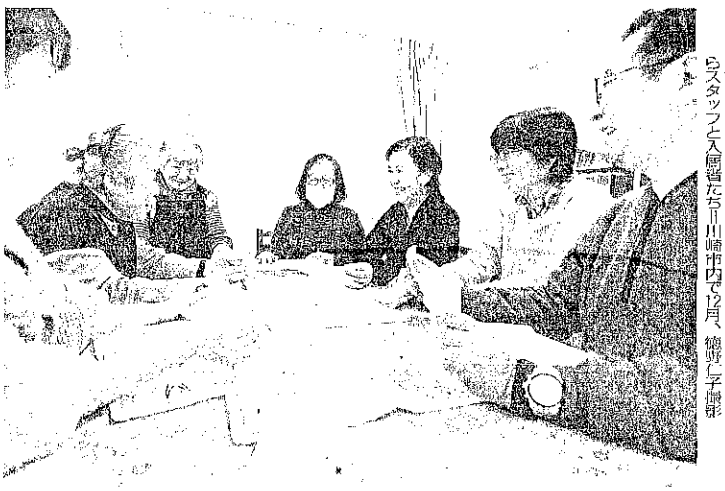
6月、完成したばかりのアパートで、近隣住民にホームの雰囲気に慣れて障害への理解を深めてもらうための会が企画される。女性も住民と直接話したいと思って参加したが、誰も来なかった。その時、初めてのぼりを見て、肩を震わせ泣いた。

数日後、ホームを運営するNPOが市内のホールで文化祭を開いた。支援者ら約200人が見守る壇上に、女性はいた。

「あのアパートに住みたいんです。応援お願いします」

仲間に励まされ、小さな体が声を振り絞った。拍手が湧き、やまなくなった。NPOの三橋良子理事(61)は「偏見を一番知っているのは障害者自身。その彼女たちが強さを見せてくれたことがうれしかった」と振り返る。

7月、事態が動いた。NPOを支援してきた弁護士の呼びかけで弁護団が結成された。さらに、女性医師のブログが障害者のフリーライター、みわよしこさん(51)の目に留まり、「いつ



新しいグループホームで、入居者が縫った刺し子の刺しゅうを手に語らう青野さん（右から2人目）、三橋さん（同3人目）らスタッフと入居者たち＝川崎市内で12月、猪飼健史撮影

ラブルが起きており、障害者の人権を守るため、付帯決議で建設に住民同意は必要ないと定める。「今は弱者が強くなっている時代。でも我々も強者ではない。普通の住民なのに」。声が震えていた。

だが、言葉が途切れた後に、ふと表情が緩んだ。「私もいつか逆の立場になって(ホームの)お世話になるかもしれない。だから悩んだ」

ある住民も「老後の生活に困っても国には期待できない。自分で何とかするしかない」と訴えていた。住民たちも、グループホームの必要性は理解していたのだろう。だが、自分たちが忘れられていくような危機感を抱き、存在を示そうと掲げたのが、あののぼりだったのかもしれない。

◇

年末、ホームの前で、青野さんと入居者たちが白い息を吐き、落ち葉を掃いていた。住民のわだかまりは消えたわけではない。だが引っ越しのあいさつの時は、手作りのお菓子を受け取ってくれた。「一歩ずつですよね」。青野さんが言った。

坂道を下ってきた初対面の女性が、青野さんたちに声をかけた。

「きれいにしてくれて、ありがとう」

笑顔が広がった。【堀智行】

□　□

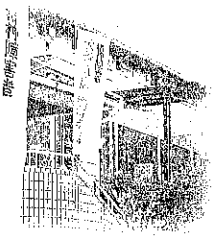
考え方が違う人、立場が弱い人への攻撃が激しい。多様な価値観や存在を受け入れられない社会の根底には、何があるのだろうか。わかりあえたら。そんな願いを込め、年初に不寛容の時代でもがく人たちと考えたい。

＝つづく

この連載へのご意見、ご感想をお寄せください。手紙は〒100―8051（住所不要）毎日新聞社会部。
ファクスは03・3212・0635。メールはt.shakaibu@mainichi.co.jp

エアアジア機 不時着試み墜落か

海底に機体 大きな損傷なく



2014年4月グループホーム(右奥)周辺に掲げられたのぼり。3カ月後に撤去された＝川崎市内で

31日夜から1日にかけ、各地の神社や寺は多くの初詣客でにぎわった。

例年、全国最多の人出となる東京都渋谷区の明治神宮でも、参拝客が玉砂利の参道に長い列をなした。厳しい冷え

う長い列

(22)は「8月に出産予定の子供が健康で生まれて来てくれますように」と祈願した。

また、渋谷駅前のスクランブル交差点には、年越しのカウントダウンをしようと大勢の若者たちが詰めかけ、ハイ

梨県南アルプス市の南アルプス・北岳（3193㍍）で40代の男女2人。【福富智】

日本海側中心 三が日に大雪

容疑者宅刃物に 別被害者DNA

前橋・夫婦殺傷

前橋市三俣町2の民家で80代夫婦が殺傷された事件で、妻への殺人未遂容疑で逮捕された土屋和也容疑者(26)＝同市本町＝の自宅にあった刃物から、11月に近くの民家で刺殺された小島由枝さん(63)と同じDNA型が検出されたことが捜査関係者への取材で分かった。群馬県警は小島さん殺害を裏付ける物証と重視している。土屋容疑者は既に小島さん殺害事件への関与を認めているという。

12月16日に発生した川浦利吉さん(81)、二美江さん(80)夫婦殺傷事件現場から西に約750㍍離れた同市日吉町1の民家では11月11日、小島さんが刺殺されているのが見つかっており、県警は同一犯とみて調べている。

捜査関係者によると、川浦さん宅に残されていたリンゴから土屋容疑者と同じDNA型が検出され、土屋容疑者が現場で食べたとみられる。リンゴから

は小島さんとA型も検出され、県警は土の所持品にあった小島さんがリンゴに移性があるとみ

転落死男 「別の部」

東京都荒川のマンション29日、13歳ら転落死した男児(5)に母親(34)が部屋にいからないと

署への取材で分かった。警視庁は後の同30日、1週間前に絞めたとする容疑で逮捕。

同署によると、11月29日午後11時ごろ、自宅にいた小島さんの部屋にいた男性が、自宅に帰宅すると寝ていた男性が、解剖で、男児転落による

31日に行われた。

雑記帳

◇静岡県沼津市の沼津港水族館で18日まで、2015との末にちなみ、ヒツジに白い毛が全身に生えた深「オキナエビ」＝写真＝が展されている。ハサミまでもだ展示を企画。多くのえとはウマやウミヘビなどふさわしい魚介類がにヒツジはめぼしい候補がなく、苦採した末、オキナエビを見た目で選も登場する縁起物。加えて、オキ

毎日新聞のご購読のお申し込みは 0120-595-091